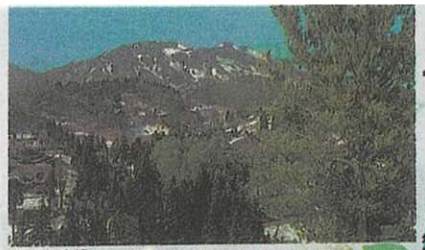
黒姫山

くろひめやま
標高 889.5m


▲黒姫山遠望

サンカヨウ
道端や谷底などに白い花をつけ北方系の植物としては数の少ない一つである。

シラネアオイ　地元の人々はシラネアオイのことを山ぼたんと呼んでいる。淡青紫色の花弁の大柄を咲かせる美しい花で、多くは乱獲によって少なくなってしまった。大切に保護したい花だ。

ヒトリシズカ
ウグイスの鳴き声を聞き歩を休めると林檎の日だまりにヒトリシズカの群生が目に入る。

タムシバ
8メートル位の木となり枝を折ると香気がする。花は6枚で白色、赤い蕊がつく。

カタクリの花
雪が消えはじめた頃、木の下に一面に花を咲かせる。その可憐な花が春を告げてくれる。

八石山

はちこくさん
標高 518m

▲八石山遠望

■鳴鶴城跡

鳴鶴城は明見城、鶏鳴城、里見城とも呼ばれ新田氏の族、里見義立が築城したと伝えられている。

ブナ林と水バショウ
低地のブナ林としては県内でも珍らしく、水バショウとともに後世に残さなければならない自然である。

ナメコ 米山や黒姫山には、ブナ、ミズナラの林があり、ブナの倒木には天然のナメコ、ムキタケ、ヒラタケ、ブナシメジなどが発生している。

黒姫神社大杉 市内宮原黒姫神社境内にあり、枝は東西に大きくのび、樹勢なお盛んである。国の重要無形民俗文化財に指定された「綾子舞」も時にはこの老杉の下で演じられている。

黒姫山登山コースタイム

（休憩時間は含まず、普通の速さで）

- 折居コース… 1時間30分（上向から山頂まで）
- 清水谷コース… 2時間30分（清水谷から山頂まで）
- 磯之部コース… 1時間　（磯之部から山頂まで）

谷川津兵エと谷川新田

谷川新田は黒姫山の中腹にあって、土地が肥え傾斜地の地である。その昔、谷川津兵エは谷川新田引水をするため、千余メートルの水路を完成させ工事は難行したい松を何本も立て、水路の高低差をはかり、その道徳を伝えている。

■またたび清水

鵜川の水源である「またたび清水」は清水谷地内にある。

白川風土記に「黒姫山黒姫神女の御手洗「一升の出つぼ」といい、一升ますのような水つぼが二ヶ所より湧き出ている水を、またたび清水という」とある。その水は大変清く、長い間貯蔵しても、味が変らないので、船頭たちが喜んで船に積みこんだという。一説には、弘法大師がこの水を飲まれ、「また旅をして来た時、ここに来てこの水を飲もう」といわれたので、またたび清水とよぶという。

■静雅園

後方を築山として、五葉松の巨木を中心に樹木を配し、当地産出の大石で囲んだ心字形の池があり、江戸末期の座観式庭園として、優れた景観がよく保存されている。

八石不動滝
滝は三段で、奇岩怪石が高くそびえ、高さ72m余りで、古来より不動明王の滝として、八石山にかかる多くの滝の中で最も信仰された。

八石山と豆木の門

昔、八石山の麓に仲の良い夫婦が住んでいた。そして可愛い男の子が一人あった。男の子が幸福に育っているうちに、女親がふとした病気で死んだ。親子二人でしばらく仲良く暮していたが、父は人にすすめられて後妻をもらった。女親になった後家さんも良い人で先妻の子を大切に育てていたが、自分の子が出来てからは、先妻の子を憎むようになった。いろいろ難くせをつけていじめていたが、ある時一人の子どもに豆を植えさせた。自分の子には良い豆を先妻の子には煎った豆を持たせた。幾日かたって裏山へ行ってみると、自分の子のまいた豆は立派な芽を出しているだろうし、先妻の子のまいた豆は何も芽を出さないだろうと思っていたら、先妻の子のまいた種が一本だけ芽を出してすくすく伸びていた。それがどんどん大きくなって、秋には大木になって豆がたわわになった。それからその山を八石山と呼ぶようになった。その豆の大木で造ったのが専称寺の門の柱だということで有名である。

※専称寺…北条駅北にある寺（例）

八石山登山コースタイム

（休憩時間は含まず、普通の速さで）

- 久之木コース… 1時間30分（久之木より山頂まで）
- 石川コース… 1時間（石川から八石城跡まで）

■八石城跡

八石城は毛利大万之助浄広とその子周広の居城といわれており、北条城主北条丹後守の策略によって滅ぼされたという「落城悲話」が残っている。

※八石登山禁止の日。4月18日は八石城落城の日にあたるので、この日に登るとさわりがあるといい伝えられている。